

第177回 番組審議会

- 1.日 時 平成20年11月5日(水)12:00~
- 2.場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
- 3.委 員 委員総数 13名
出席委員数 10名(欠席委員数 3名)

出席委員(敬称略)

椎井 一意(副委員長)

以下50音順

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

中川 真

中原 祥皓

村上 幸子

八木橋 伸之

吉田 浩次

会社側出席者(7名)

内海 幸司(代表取締役社長)

佐藤 滋樹(常務取締役)

小原 忍(常務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

前田 秀男(取締役技術局長)

一戸 俊行(報道局長)

工藤 哲人(報道部)

事務局 後藤 望

4. 議 題

MITスーパードキュメント

『雲上の楽園を豊かな森に～松尾鉦山跡地・森の再生プロジェクト』

平成20年9月13日(土) 14:00～14:55放送

5. 議 事 概 要

今回はMITスーパードキュメント『雲上の楽園を豊かな森に～松尾鉦山跡地・森の再生プロジェクト』について審議した。

各委員からは「制作者の熱意が伝わる好番組だった」、「地道な活動を丹念に取り上げ、鉦山元従業員が登場した場面も効果的だった」、「環境の大切さを痛感した」などの意見が出た。

また「1時間の放送時間はやや長すぎた」、「2つの団体の取り組みの違いをもっと具体的に示してほしい」との意見があった。

6. 議 事

事 務 局

ただいまより第177回番組審議会を開催いたします。

産経新聞盛岡支局長の土樋委員が10月1日付で福島へと異動なされました。今回から、新しく盛岡支局長に就任いたしました中川真さんが番組審議委員として加わることになりました。お手元に略歴書を配付させていただきました。中川委員より一言ごあいさつをお願いいたします。

中川委員

只今ご紹介いただきました産経新聞社の中川と申します。よろしくお願ひいたします。

産経新聞盛岡支局は、2代続いて地元出身の支局長で、地元のことは良く分かった上での取材活動でしたが、私は盛岡は初めてで、着任して一ヶ月がたち観光気分がやっと抜けたかなという現在です。食べ物もおいしくて皆さんに親切にいただき、毎日楽しく仕事をしています。会う人、会う人に「これから寒くなるから気をつける」と脅かされております。寒さ対策も色々教えていただければなと思っております。

不慣れなところもあり、色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。

事務局

どうもありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。今回の議題は9月13日に放送されました、MITスーパードキュメント『雲上の楽園を豊かな森に～松尾鉦山跡地・森の再生プロジェクト～』です。本日は、プロデューサーの一戸報道局長、ディレクターの報道部・工藤哲人が出席しております。

それでは、椎井副委員長、よろしくお願いいたします。

椎井副委員長

谷口委員長がきょう都合により欠席ということで、副委員長の私が議長を務めてさせていただきます。最初に、一戸さん、工藤さんから、番組の背景などについて説明していただきます。

一戸プロデューサー

報道部の一戸です。よろしくお願いいたします。

「MITスーパードキュメント」は、視聴者に感動を与えられるような番組を分野にとらわれず、報道部から発信していこうと、今年度から始まりました。

1回目は、ベアレン醸造所でのタンク破裂事故を乗り越え、亡くなった従業員の意思を継いでビールを造り続ける人々に密着しました。

今回は、松尾鉦山跡地を緑の森にしようというプロジェクトを追ったものです。ディレクターを担当した工藤は、入社6年目で、現在県政のキャップをしています。

企画の提案を見て、松尾鉦山という負の遺産について私たちがはっきり認識しなければならぬということ、そしてそこを緑の森に戻すべく活動をしている人たちがいることを知ってもらいたいと感じました。

反省としては、今回は1時間番組として放送いたしましたが、最初の30分以降はもっと視聴者を引きつけるような構成要素が必要だったかなと感じています。

今日は皆さんにいろいろな意見を伺い、番組作りに活かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

工藤ディレクター

報道部で記者をしている工藤と申します。よろしくお願いいたします。

私は、この番組の取材を始める前までは、恥ずかしながら、松尾鉱山といえば、廃墟というイメージがあるだけで歴史や公害の話はほとんど知りませんでした。学校の授業で、北上川の水質汚染の問題を教わった記憶がなく、中和処理施設の存在も大人になってから知ったくらいです。でも、あの廃墟を見るたびに、心に引っかかる何かを感じていて、今年の1月に植樹の話を知った時、迷わず「取材したい」と思いました。

植樹には、「負の遺産」を何とかしたいという気持ちで松尾鉱山の元従業員の方が参加していて、一方で、私と同じように、植樹に参加して初めて松尾鉱山の歴史や問題を知ったという若者や子供たちにもたくさん出会いました。そこで、番組を通じてこの活動を多くの人に知ってもらおうということに意味があると思い制作いたしました。

番組では2つの植樹団体を取り上げました。松尾鉱山での植樹は、確立された技術がないために、それぞれ独自の方法で取り組んでいます。今年、協議会が設立され、協力関係が作られましたが、一方で、どちらのやり方が上手くいくかというライバル関係のようなところもあります。「東北環境研」が松尾鉱山では、パイオニアだったので、最初に登場しています。

「森びとプロジェクト委員会」は、栃木県の足尾銅山跡の植樹に取り組んでいるNPOです。顧問の宮脇昭さんは「森を蘇らせる男」と呼ばれる有名な植物学者で、世界1200カ所で森の再生に取り組んできた方です。この両団体のいい意味での緊張関係の間に入っての取材は面白くもあり大変でもありました。

番組放送後の10月4日に、「東北環境研」の植樹があり、過去11回の中で一番多い、およそ240人の市民が参加してくださり、うれしく思いました。私も、家で5ヵ月間ほど育てたナナカマドの苗を植えてきました。まだ背丈が40センチほどですが、先週、八幡平での取材の帰りに見に行きましたら、20枚ほどしかない小さな葉っぱが見事に真っ赤に紅葉していて、とても感動しました。しかし、この苗もしっかり管理しないと、あっけなく枯れてしまいます。大切なのは、活動を続けていくこと、繋げていくことだと改めて感じています。今後、森が出来るまで、私が活着しているかどうか分かりませんが、継続して取材をしていきたいと思っています。

椎井副委員長

ありがとうございました。最初に、中川委員からお願いいたします。

中川委員

個人的な話ですが、10月の中旬に家内と一緒に八幡平に紅葉ドライブに参りまして、そのときに松尾鉦山の住宅が車窓に見えてきたのですが、恥ずかしながらこの松尾鉦山というものを全然知らず、そのときは何だか分かりませんでした。帰ってから調べてみたりしましたが、今回の番組を拝見させていただいて、非常によくその背景等が分かりました。地元のメディアは、地元の視聴者あるいは読者は地元のことをある程度分かっているという認識でニュースや番組を作るケースも多いのではないかと思います。このような大きな問題を、特に若い人たちは余り知らないことも多いのではないかと、ということで、真正面から取り上げるというのはとても素晴らしいことだと思いました。

私のような予備知識のない人間が見ても、問題の本質とかあらましというのがよく分かりました。苗を一般の人たちに育てさせて、それを植えてという手作りの取り組みが広い共感を呼ぶのかなという印象も受けました。とても興味深く拝見させていただきました。

椎井副委員長

ありがとうございました。それでは、続きまして斎藤委員からお願いいたします。

斎藤純委員

あそこで植樹活動をしているというのは以前から知ってはいましたが、初めて中身を詳しく知ることができました。それから、番組の中で松尾鉦山の昔の記録映像が出てきましたが、僕は初めて見る映像が多かったので興味深く見ました。

ただ、1時間だとちょっとこれは長かった、という感じがしました。構成にやっぱり工夫が欲しかったなと思いました。大事なことからしつこくきちんと伝えたいという気持ちは分かりますが、ちょっと繰り返しが多いと思います。

それから、「雲上の楽園」という言葉も、これが何回も出てきます。うるさく感じるくらい出てくる。これももうちょっと考えてほしかったなと思いました。

あと、僕はあそこをいつも通るたびに、国立公園の中にこういう廃墟を残しておいていいものだろうかと思っていましたが、最近、産業遺産とかに指定されました。その説明が欲しかった。

それから「森びとプロジェクト委員会」の足尾鉦山の例を紹介して欲しかった。足尾鉦山は一体どのようにやって、どうなっているのかを知りたいと思いました。

最後に、こういう記録を持っていると、50年後、100年後にめんこいテレビが残っていると、森ができたときにこの番組は財産になると思います。50年前、100年前の人の活動で、松尾鉱山にこんな立派な森があるんだよという紹介ができるわけです。だから、森作りと同じように、記録を残しておくこともすごく大切なことだと見ておりました。

椎井副委員長

ありがとうございました。続きまして、菅原委員からお願いいたします。

菅原委員

私は、面白く見て、そして、興奮して、今から行って手伝いたい、一緒に何か手伝いたくなるような、すごくいい番組だったと思いました。

何で面白いのか。植樹活動は不覚にも知らなかった。廃墟は廃墟で、かつては雲上の楽園だったという動かぬ証拠を残すために撤去しないで残す。それと緑を育てる。その両方の対比ですごく面白いと思った。何でも片づけりゃいいというものじゃない。だから今植樹をしている緑と両立させることで、あそこはすごく良くなるような気がします。

それから素人考えですが、落ち葉がゴミとしてどう処理されているのか知りませんが、ありとあらゆるゴミ扱いの落ち葉を全部あそこの捨て場にすればいいと思いました。そして、犬とか馬とか連れて散歩して糞をさせます。そうすると、たちまち変わります。落ち葉と動物の糞が一番早い。これは素人考えです。舗装道路の上はまずいけれども。私は犬の散歩しているとき、糞をすると、ポンと蹴飛ばして土のところに落とす。すると、そこに昆虫が集まってバクテリアが繁殖する。ゴミ扱いではなくて、資源とすべきです。まず土壌を変えることですから、腐葉土を増やすことが大事です。などと、具体的なことまで考えてしまいました。何か植えたくなくてきて、すごく興奮して番組を見ました。

気が遠い話はうれしい。そういうの好きですから、妙に興奮して拝見しました。頑張りましたね。お疲れさまでした。

椎井副委員長

ありがとうございました。続きまして、八木橋委員からお願いいたします。

八木橋委員

活動が上からの押しつけではなく、民間発生的に出てきたということを取り上げたのは見ている気持ちのいいものがある、すごく感動しました。古い公害の時代にだれの責任かということで企業がバッシングされた時代がありました。今それを国が悪いのか、企業が悪いかは別として、みんなでやっに行こうという民間的な発想も出てきたのかなということで、このように番組で取り上げることはいいことだと思います。

ただ、青森県の県境の産廃問題とかでは、まだ利害関係が鮮鋭に対立していて、捨てた企業が悪いのか、中間の業者が悪いのか、責任問題で盛んにもめています。みんなの意識が、公害で広がっている問題は自発的に直そう、ということの一方で、このように新しい問題が常に発生しているというところも、欲を言えば対比してほしかった。

個別の映像で良かったのは、雨水が酸性化する時の説明にパネルとテロップを上手に使ってとても分かりやすかった。それから、県職員をやっていて、途中から研究会を組織した高橋さんが、12年前に失敗して、また6年前から再活動した。その経過が非常に分かって、「ああ、こういう人もいるんだ」ということで大変良かった。

それから、「森びとプロジェクト委員会」が土壌改良をしていました。前の50センチの覆土が結局、酸性化して、また入れ替える、ということでした。あれを見ただけで、「これは何百年かかるのかな」という、本当に気の遠くなるような話があのでシーン見ただけで頭に浮かびます。非常にいいシーンだったと思います。個別的にはそういういいシーンがとても気に入りました。

椎井副委員長

ありがとうございました。続いて、斎藤雅博委員、お願いいたします。

斎藤雅博委員

今回の番組は、私には特別の思いがあって見させていただきました。実は私は昭和28年にあの松尾鉱山で生まれて、4歳のときに父の転勤で山を降りた経験を持っています。あの廃墟となっている緑ヶ丘アパートに住んでおりました。アパートはセントラルヒーティングで、水洗トイレでした。番組の前半で流れる映像は、自分の思い出と重ねて見ることができました。短期間とはいえ、その繁栄の恩恵をこうむった私としては、東洋一と言われた硫黄鉱山の末路と、負の遺産に心が痛む思いでありました。

その負の遺産に対して、本当に気の遠くなるような長期的な展望のもと森を再生させようとしている人々の取り組みを丹念に伝えた非常に良い番組だと思います。松尾鉦山の元従業員の2人を登場させたというのも非常に良かった、効果的であったと思います。

それから、荒れ地と並ぶ負の遺産の鉦毒水の中和処理施設を取り上げたのは、非常に適切であったと思います。破壊された自然をもとに戻すことの大変さというのを今回の番組で改めて感じさせられました。

それから、活動の中で評価できるのは、苗を育てる里親制度です。工藤さんも預かったということですが、やっぱり自分で世話して植えると気になって見に行く。そういうことがこういう活動の大切なことで、この里親制度というのを考えたのはすごく素晴らしいと思いました。

それから、「森びとプロジェクト委員会」の方が、「緑を育てる運動を通じ、人づくりにもなっている」と言っていました、まさしくそのとおりだと思います。「環境研」の2人が「楽しみながらやっている」と言っていました、こういった活動は楽しみながらやらないと長続きしないのではないかとも思いました。

八幡平の国立公園の中にある人類の負の遺産に、苦労をものともせず取り組む人々の姿や、廃墟を通じて、繁栄とは何か、自然とは何かとか、いろんなことを考えさせられる非常に良い番組であったと思います。

椎井副委員長

ありがとうございました。斎藤雅博委員もこの番組に出ただけならば、もっと色々な話が聞けたのではないかと思います。

私は岩手県人ではありませんが、八幡平の美しさは誰しも知っていると思います。その一方、こういった荒地があり、そこを再生しようということで、いろんな方々が汗水流して努力している姿というのは意外と知られていません。この番組は周辺の県でもぜひ放送していただきたいと思いました。

それから、この番組を見て、企業は経済と環境の調和ということで、早目、早目に自然との調和を考えていかなければならないと改めて感じました。そして、一度失った自然を元に戻すには大変な時間と労力とお金が必要だということも改めて痛感いたしました。

それから、この運動はスタートです。スタートに着手している人たちの苦労というのは大変なものだと思います。こういった人たちの努力がこれから大きく花を開けるように私ども

もバックアップしていかなければいけないなと思いました。

この番組のメッセージは、十分伝わってまいりました。この運動を次代の人たちにぜひ受け継いでもらいたいということが私の胸に響きました。次代の人たちがこの苦勞を引き継いで夢を実現させていくということが私どもに課せられた大きな役割ではないだろうかと思いました。

それでは、続きまして、中原委員からお願いいたします。

中原委員

私は松尾鉦山、北上川の鉦毒水、八幡平の自然破壊など、少し関わった経緯もあり、非常に興味深く見させていただき、改めて参考になりました。

3万本の植樹ということでしたが、ナナカマドのほかにもどんな種類の木を植えればいいのかということがかかりました。また、せっかくの高山植物の紹介がもう少し詳しくければ、もっと印象深い番組になると思いました。

それから、2団体のいい意味の競争とおっしゃっていましたが、私には、それがどういうところに現れていて、どういう競争をしているのだろうか、というのが見えてきませんでした。一緒にやったらいいのではないか、という素朴な思いがしました。

それはともかくとして、この番組のテーマは、岩手県民というより日本の、あるいは地球における環境問題を考えてもらうという意味で、追いかけて取材していただければと思います。

椎井副委員長

ありがとうございました。続きまして、村上委員からお願いいたします。

村上委員

制作者の若々しい情熱が感じられた作品だったと思います。真っすぐな視線で自分の知りたいところ、伝えたいところを追いかけて制作していて、清々しさを感じました。

松尾鉦山の歴史は、ここ何年か中央のメディアにも取り上げられていますが、やはり地元のメディアで、地元の人たちに登場してもらい、それを伝えるということの大事さを改めて感じました。

植樹の2団体の皆さんが、使命感もありますけれども、非常に楽しんで、未来につなぐことの楽しさを余り肩ひじ張らずにやっていたらっしゃるのがすごく伝わってきました。時間を

かけて培ってきた経験が非常に自然に語られていて、皆さんが自分のものにしてやっていらっしやるということがすごく感じられました。

元従業員の方が登場して、自分たちが青春を過ごした景気のいいころの楽しい思い出の地が、負の遺産扱いにされてしまったところに忸怩たる思いがあるというようなことをおっしゃっていました。そういった方々の思いというものも繋いでいく植樹なんだなと思いました。

人間ドラマとしてだけではなく、歴史、生物、化学、などの授業にも使えそうな内容を分かりやすく伝えていたことが、とても面白かった。

それから、高山植物のかわいい花のシーンがすごくほっとして良かった。アスピーテラインが開通して、八幡平の自然が徐々におかしくなった。それを再生できたのだから、松尾鉱山跡も絶対復活できるとおっしゃっていましたが、すごく印象に残った言葉で、希望が持てるような良いシーンだったと思います。

椎井副委員長

ありがとうございました。続きまして、東海林委員からお願いいたします。

東海林委員

私は「えっ、どうして」とテレビに向かって話しかけて見ていることが多いのですが、そういう意味でこの番組は面白かった。問いかけに答えてくれるような形で非常にいいテンポで進んでいったので、飽きることなく楽しく見させていただきました。

ところが、30分たったところで、説明的になってしまったのか、時計を見てしまいました。一戸プロデューサーが30分番組の予定だったとおっしゃっていましたが、なるほど、私はあそこで時計を見てしまったなということを思い出しました。

負の遺産として荒れ地のまま、それからアパートも残骸のまま残すというのも一つの考え方ではないのかなというのが、30分たった段階での私の思いでした。ただ、その後、植樹の取り組みを見て、気持ちが変わってきて、100年、200年後に続くプロジェクトだからこそ、やはり子供たちが後に続いていくことが大事だと思いました。平館小学校の子供たちだけではなくて、八幡平市の子供たちみんながこのプロジェクトに関わっていけば、続いていくプロジェクトになるのではないかと思います。

椎井副委員長

ありがとうございました。では、吉田委員からお願いいたします。

吉田委員

私は、この番組を見まして、番組審議とは関係ないところで、自分の青春時代を思い出しました。盛岡市内のスケート選手は、高松の池に氷が張る前は、松尾鉱山にある小さな池に練習に行っていました。私もその一人でした。私がちょうど高校時代に練習に行っていたのが昭和30年代の初めです。まさに松尾鉱山の最盛期で、1万5千人も住んでいたというでしょう。それはそれはにぎやかな印象が残っています。

私が小学校のころは北上川で川遊びをされていて中学校のころまでは北上川で泳げたんです。それが昭和30年代になるとそろそろ汚れてきて、40年代になったら真っ黄色、真っ赤かという感じでした。それから、これは忘れもしませんけれども、北上川に商店街の人はごみを投げていました。私は、その係でしたから、思いつき段ボールに積んで、夕顔瀬橋から北上川に投げていました。そのくらい環境に対する認識というのがなかった時代でした。そんなことをずっと思い出しながら、番組を見ていました。

閉山になって36年たって今日そういう問題を抱えているわけです。岩手県の環境問題の原点がここにある。この番組を見て、たくさんの方にもっともっと環境破壊の恐ろしさというものを知らしめてほしいということと、環境被害というものをもっと具体的に色々な事例を示してもらってもよかったと思ったりもしました。いずれにしましても、環境問題を取り上げたこの番組の狙い、それから意図というのが十分に生かされていたと思いました。

千葉絢子アナウンサーの最後の「終わりのない取り組み、100年先を見据えた取り組み」というナレーションに、見ていてじんときました。大変良い番組でありました。

椎井副委員長

ありがとうございました。続いて欠席委員からのリポートを事務局からお願いいたします。

事務局

役重委員、久慈委員から届いております。

役重委員レポート

以前の番審のテーマにもこの松尾鉱山跡地の問題がとりあげられたことがありましたね。メディアとして、「ああ継続的にウォッチしているんだな」ということ、まずその姿勢に大き

な共感を覚えました。

栄華を極めた鉱山の全盛期、斜陽の時代、そして「負の遺産」と呼ばれるにいたる現代まで、当時の映像や数字的なデータ、関係者の証言などをテンポ良く配し、一般の視聴者でもとても分かりやすく理解できるつくりになっていたと思います。「来なかったのは美空ひばりだけ」、あのようなコメントが取れると全体がぐっと生きてきますね。

県職員OBの高橋さんの活動について、木の力で森を作る「松尾方式」や市民を巻き込んだ「森の保育園」など、具体的な映像で見せられるととても興味深く、ただ夢を語る・聞くのとは違う説得力がありました。市民活動には色々な分野がありますが、こういう現場のあるものは映像での情報発信が特に効果的だなと感じました。当初二人で種をまいた活動がNPOセンター、森ひとプロジェクトなどを巻き込んでふくらみ、最後はあの小さな男の子の笑顔の中に芽が出る、その広がり過程もうまく構成されていたと思います。

一方で、酸性土壌を克服して森を再生するという主旨そのものは伝わるものの、これが年間5億円のお金をかけて中和処理しているという酸性水の改善にはどうつながるのか、その科学的な根拠、また数百年と簡単にいうものの、その期間はどうか見積もるのか、それまで毎年毎年5億円がかかるということなのか、その辺りの説明も必要ではなかったかなと思います。また、あえてぼかしていたかも知れませんが、どう見ても収益事業にはならないであろうプロジェクトを、金銭面では誰がどのように支えているのか、NPOの出資などはどうなっているのかも、この活動に興味を持った視聴者なら知りたい部分ではないかと感じました。

終わりに、今後もこのテーマを継続的にフォローしていただきたいです。数十年後、あの男の子が親になり、じいちゃんになり、同じ八幡平の山々をバックに、昔「はげ山」だったこの土地のことを問わず語りに語る。カメラを引き、育ちつつある若木の群れを遠景に捉える。ぜひ、こういうドキュメンタリーをめんこいテレビで作ってください。(そのときは我々はもう誰もこの世にいないかも知れませんが)

久慈委員レポート

松尾鉱山の話は少しは知っていましたが、あらためて、今回の番組を見て昔はとても発展していた場所だったということと、現在はその環境被害がすごいことになっており、半永久的に水質改善をしないと川に水を流せない現状を知り、改めて大変なことだと思いました。よく調べられており、分かりやすく、そして森を復活させようとする皆さんの熱意も伝わりとても良い番組だと思いました。

何よりも千葉アナウンサーの語りが聞いていて心地よく、しかも、問題の大きさなどがよく伝わる語り方だったと思います。

このような県民の身近にある意外と知らない問題を喚起することはテレビの仕事として非常に大切なことなんだと思いました。このような問題提起ができるドキュメント番組を積極的に制作していただくことを願っています。

椎井副委員長

ありがとうございました。番組作りに携わった一戸さん、工藤さんのほうからご説明なり、あるいは委員の方からご意見、ご質問がありましたらご遠慮なくお願いしたいと思います。

工藤ディレクター

補足したいところがあります。環境保全というテーマが1つあって、そもそも環境は保全するものなのかどうかという議論からスタートしました。松尾鉦山跡地も一体どの状態まで戻すのがいいのか、どういう森にするのかというのも意見が分かれて描き切れませんでした。例えば「環境研」の高橋さんたちは自然が大好きなので、動物たちが集まる森にしたい。もう一方の「森びとプロジェクト委員会」は家族で遊べるような、楽しめるような森にしたい。まだ森になっていないので、まだまだこれから時間かけて議論して、みんなで作っていく再生の森ができればいいなと思っているところです。

椎井副委員長

ありがとうございました。それでは、本日の番組審議会を終了させていただきたいと思います。

事務局

今回の審議会の模様は、11月15日(土)朝4時42分から「めんこいテレビ番審リポート」として放送いたします。12月は休会となっております。次回は年が明けての1月14日(水)を予定しております。本日はありがとうございました。